

6人制ソフトバレーボール規則<H24>

≪ 準 備 ≫

【用 具】

- (1) 協会制定ソフトバレーボール（重さ210g±10g、円周78cm±1cm）
- (2) 6人制バレーボールネット（幅100cm）
- (3) バレーボール用支柱（高さ 男子2m15cm 女子・混合2m）
- (4) アンテナは、アンテナの位置サイドバンドの外端に取付ける。
- (5) 得点板

【コート】

全体では**18m×9m**の大きさになる。9m×9mのコートのうち、ネットから3mまでのエリアをフロントゾーン。

【ネットの高さ】

ネットの高さは、男子**2m15cm** 女子・混合**2m00cm**とする。

≪ 方 法 ≫

【競技者人数】

1チーム6名（交替競技者を他に3名まで置くことができる）ただし、混合の部においては、競技中コートには規定の競技者が常に存在しなければならない。

- (1) 混合の部（常に一人でも異性がいればOKとします）
男性/女性混合（人数）規制なし（学生・小学生の参加も可）

【進め方】

- (1) トスで勝ったチームがサービスかコートのいずれかを選択する。
- (2) ゲームはサービスから開始され、両チームはポールを自陣コート側に落とさないようにし、ネットを越して互いに打ち合う。
- (3) 得点はラリーポイント制で、サービス権に関係無く、どちらかのチームの得点となる。
- (4) 各セットは15点先取制とする。14対14になったらジュースに入り、その後2点勝ち越したチームがそのセットの勝者となる。**ただし**、得点は17点で打ち切れ、1点差であっても17点を先取したチームは勝者となる。
- (5) コートはセットごとに交替する。第3セットはトスによりコートを決定し、いずれかのチームが8点先取したときに交替する。そのときのサービス権は移行せず、交替時のまま続行する。
 - ・得点が21点の場合・・・20対20でジュース・23点先取、11点交代
 - ・得点が25点の場合・・・24対24でジュース・27点先取、13点交代

【勝 敗】

3セットマッチ制で、2セット先取したチームが試合の勝者となる。

【サービ ス】

- (1) サービスは、バックライトの位置にいる競技者が行う。
- (2) サーバーは、自陣コートのエンドラインの後方のサービス・ゾーン内から、片方の手または腕でポールを打ち、相手側コート内に入れる。（ジャンプサービスの場合は、踏み切ったときの足の位置がサービス・ゾーン内であること）

- (3) **サービスは1回しかできない。**(ネットに触れて相手側コートに入ったサービスは失敗であり、やり直しとはならず、相手チームの得点となる)
- (4) サービスが打たれる瞬間、両チームの競技者は、定められた各ポジションに位置していなければならない。
- (5) 第2セット開始のサービスは、第1セット開始時に行わなかったチームが行う。第3セットはトスによって決める。
- (6) 小中学校生の競技者は、ショート・サービス・ゾーンからサービスすることができる。

【ボールへの接触】

- (1) ボールは、3回以内の打球によって相手側コートに返す。
(パスの途中などでボールがネットに触れても、打球回数の特例はない。また、同じ競技者がネットに触れたボールをプレーした場合はドリブルとなります)
- (2) **ブロックによる、ボール接触は1回に数えない。**
(ブロック後の1回目の打球は、ブロックを行った競技者を含んで、誰にでも許される)
- (3) 同一チームの2人の競技者が同時にボールに触れた場合は、1回と数える。
(この場合、いずれの競技者も引き続いて打球することができる)
- (4) **ボールは、身体の中の部分に当たってもよい。**

【ポイント】

以下の場合、相手チームに1点を与え、サービス権を持っているチームは、さらに相手にサービス権も与える。

- (1) ローテーション順を誤ってサービスを行ったとき。(サービスの誤り)
- (2) サービス・ゾーンの外でサービスを行ったとき。《フット・フォールト》
- (3) サービスが行われた瞬間に、競技者が正規のポジションに位置していなかったとき。
《アウト・オブ・ポジション》
- (4) サービスしたボールが、アンテナに触れるか、相手方競技者に触れずにボール・アウトになったとき。または、サービスをするためにトスしたボールを打たなかったとき。
《サービス・フォールト》
- (5) **サービスされたボールをブロックしたとき。**(ブロックの反則)
- (6) **サービスされたボールをアタック・ヒットしてそれが完了したとき。**
(アタック・ヒットの反則)
- (7) 打球回数がブロックを除いて最大限3回を越えたとき。《オーバー・タイムス》
- (8) 明らかボールが止まるようなプレーがあったとき。《ホールディング》
- (9) 同一競技者が、明らかに2回続けてボールを打球したとき。《ドリブル》
(ブロック後、および2人の競技者が同時に打球した後は、どの競技者が続いて打球してもよい。また、チームとしての第1回目の打球時は、1つの動作中のものであれば、身体の中の2カ所以上に連続して当たってもよい)
- (10) **イン・プレー中に、身体や衣服などがネットやアンテナに触れたとき。**《タッチ・ネット》
(他の競技者(プレーに参加していない)も含む・・・**H22改訂**)
- (11) 相手方コート上にあるボールに触れたとき。《オーバー・ネット》
- (12) センターラインを完全に踏み越したとき。《パッシング・ザ・センターライン》
(足または手の一部分がラインに触れているか、その真上に残っている場合は、許される)

(13) 以下の場合ボール・アウトとなる。

- 1) ボールがコート外に落下するか、またはコート外の物体に触れたとき。
- 2) ボールがアンテナのみに触れたとき。
(アンテナとネットに同時接触した場合は、サービスを省きボール・アウトにならない)
- 3) ボールが2本のアンテナ、またはその想像延長線の間を通過しなかったとき。
- 4) ボールがネットの下を通過して相手方コートに入ったとき。

【競技者の位置と移動】

- (1) サービスが打たれる瞬間、各競技者は定められたポジションにいなければならない。
- (2) **サービス後は、どのように移動してもよく、アタック・ブロックなど、ポジションによるプレー上の制限はない。**
- (3) サービス権を得た時は、直ちに時計の針と同じ方向へ、メンバーの位置を1つずつ移動する。《ローテーション》
- (4) **セット開始前なら、競技者のポジションを、前のセットと変更してもよい。**
(各セットのサービス順のポジション位置となります)

【タイムアウト】

- (1) 競技者交替のタイムアウト
 - ・要求の方法 ボールがアウトオブプレイのとき、監督かゲームキャプテンが決められた合図と人数を示して要求する。
 - ・交代 チームは1セットにつき3回までとることができる。交代は1人でも複数でも良い。交代したプレーヤーは同じプレーヤーとのみ交代できる。
- (2) 休息のタイムアウト
 - ・要求の方法 ボールがアウトオブプレイのとき、監督かゲームキャプテンが決められた合図を示して要求する。
 - ・回数と時間 1チームは1セットに2回までとることができる。1回のタイムアウトは30秒間。2回分をまとめてとることも可能。
- (3) セット間のタイムアウト
セット間は3分間。